

本号の「脊椎・脊髄疾患と筋萎縮」特集は、執筆者が整形外科、脳神経外科、神経内科と多彩である。まさに本誌の特徴がよく表れている。

1988年創刊の本誌「脊椎脊髄ジャーナル」は、領域横断的な切り口で特集を組んで、日本の脊椎脊髄疾患診療に多大な貢献をしてきた。脊椎脊髄疾患のような複数の診療科が関わる疾患では、領域に壁をつくらずに情報交換することが、診療の質を向上させ、患者さんの利益につながる。

今般議論されている新専門医制度は、19基本診療科—sub-specialty構造のプログラム制で、診療科の管理体制が強化される。この新制度では、整形外科を専攻した医師が途中からリハビリテーション科に変わるとか、脳神経外科から救急科に変わるといった柔軟なキャリア形成が、現在よりも困難になると考えられる。領域をまたいでキャリアを積んできた医師が、これまで医療の多様な進歩に貢献してきたことを考えると、新専門医制度は医療の進歩を阻害するかもしれない。その他にも基幹施設の条件が厳しいことや、連携施設へのローテートが必須なことなど問題が山積みで、地域医療を壊すとして現場の医師から反対の声が多い。

さらに神経内科は内科の subspecialty の位置づけなので、卒業3年目以降にも内科の他領域の研修、たとえば消化器内科の内視鏡の助手や白血病の化学療法とその副作用対策などの研修が義務化される。そのため、神経内科医にとって最も重要な神経学的診察の修練に十分な時間をとることができず、かなりのマイナス影響があると予測される。これは脳神経外科や整形外科の医師が、「君たちは外科系なのだから、後期研修でも虫垂炎や胃がんの手術を経験しなくてはならない」と言われているのに等しい。

Neurology は内科の他の診療科と診療スタイルが大きく違っているため、欧米諸国では内科とは独立した診療科である。日本においても神経学会と内科学会との関係の見直しが必要だと思う。しかし新専門医制度は、そのような見直しを阻む硬直化した管理制度である。私は制度の抜本的見直しが必要だと考える。

最後に私事になりますが、10年間務めさせていただいた本誌の編集委員を引退させていただくこととしました。今後の神経内科領域の編集は園生雅弘先生と亀山 隆先生が担当されます。本誌が今後も日本の脊椎脊髄疾患診療に役立つユニークな雑誌であり続けることをお祈りしています。またときどき執筆させていただきますね（笑）。

（安藤哲朗）

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

長島親男 小野啓郎 萬年 徹
高橋 昭 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

徳橋泰明（編集委員長）
金 彪（副編集委員長）
青木茂樹 安藤哲朗 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 田口敏彦
谷 論 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 30 No. 5

（2017年5月25日発行）

毎月1回25日発行

1部定価（本体2,300円＋税）

（配送料別）

年ぎめ予約購読料 30,700円＋税

送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2017,
Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。